



## 「学問への扉」2年目を迎えます！

2019年度春～夏学期から、全学共通教育科目「学問への扉」がスタートしました。1年生の必修の初年次教育科目であり、少人数かつ学部混合で、先生方のご専門に基づいた多様な学問分野の授業を受講できることが特徴です。2019年度は226クラスが開講されました。

2019年度の授業の成果の可視化と今後の充実化を目指して、「学問への扉／アドヴァンスト・セミナー部会」研究開発ワーキンググループのメンバーで、学生・教員を対象にしたアンケートを実施し、また、授業事例紹介を中心とした授業実践ガイドを作成しました。ここでは、学生向けアンケート結果の一部と、授業実践ガイドの概要をご紹介します。



「学問への扉」2019年度報告会・2020年度担当者研修会の様子

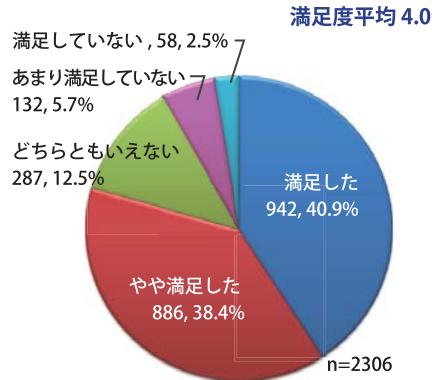


### 2019年度 学生向けアンケート結果

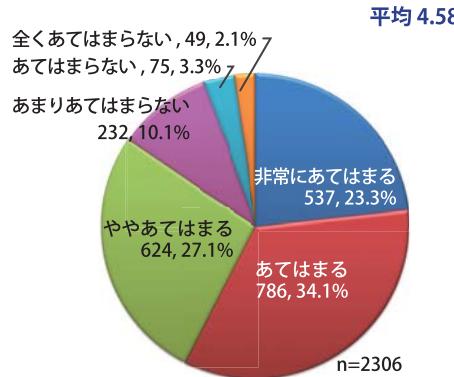


「学問への扉」の受講生を対象に、2019年7月16日～8月31日にKOANのWebアンケートシステムで回答を求めました。対象者数3344名に対して、2306名(回答率69.0%)の回答が得られました。その結果、『「実際に今のクラスを受講して(当初の期待に対して)満足度はどのようなものですか? (5件法)」の質問』では満足度平均4.09が得られました。本科目の目的である『研究の面白さを感じられた(6件法)』の質問については平均4.58、授業方法に関する『教員は、学生の興味や関心を引き出すように試みていた(6件法)』という質問については平均4.89という高い結果が得られました。集計結果はWebで公開しております。今後は教育方法と学習能力の関連性等の分析を行う予定です。

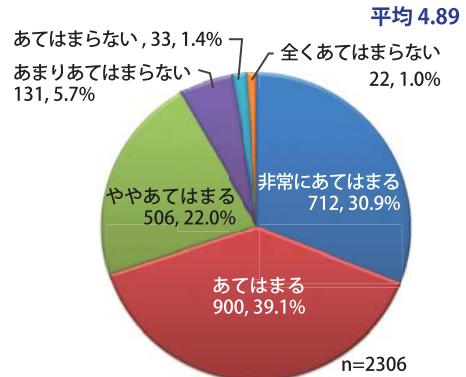
実際に今のクラスを受講して(当初の期待に対して)  
満足度はどのようなものですか?



研究の面白さを感じられた



教員は、学生の興味や関心を  
引き出すように試みていた



### 授業実践ガイド

優れた授業を行っている先生方の実践を共有するために、授業事例の紹介を中心に「学問への扉 授業実践ガイド」を作成しました。できるだけ多様な分野の事例掲載を目指して20の授業を選定し、担当されている先生にご協力を仰ぎました。15回の授業の中で最も特徴的な授業が行われる日程をご指定いただいた上で、1コマ分の授業を見せていただき、授業後には30分程度のインタビューを実施しました。事例紹介では、「学問への扉」として特徴的な要素や、授業研究で優れているとされている授業の要素を抽出し、1授業につき見開き1ページで、できるだけ授業文脈に即した形で授業の魅力を紹介しています。今後の授業設計の参考にしていただけると嬉しいです。

全学教育推進機構 教育学習支援部 大山牧子・村上正行



「授業実践ガイド」やアンケート結果は、こちらに掲載されています  
→ <https://www.celas.osaka-u.ac.jp/teacher/>



# 全学教育優秀賞授賞式を挙行しました

2019年12月20日（金）、全学教育優秀賞授賞式が挙行されました。2年次第1学期までの共通教育課程において特に優秀な成績を収めた学生49名に対し、大阪大学憲章の第3項に謳われた「大阪大学は、教育研究活動を通じて『地域に生き世界に伸びる』をモットーとして、社会の安寧と福祉、世界平和、人類と自然環境の調和に貢献する」ことを実現してほしいという思いを込めて、賞状および副賞のバッジ、機構オリジナルクリアファイルが贈呈されました。



▼ 機構オリジナルクリアファイル

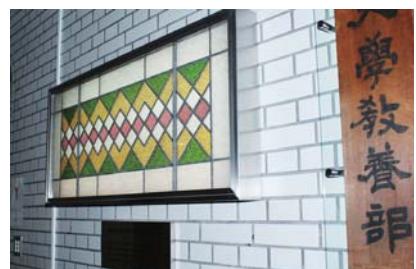


## 教養教育 歴史コーナー

＼ができました／

全学教育優秀賞の名称は、1921年設立の旧制大阪高等学校、1926年設立の浪速高等学校、1949年の新制大阪大学の一般教養部の流れを引き継ぐ全学教育推進機構の名称からとられています。浪速高等学校の敷地と建物は豊中キャンパスに引き継がれており、浪速高校本館は現在も大阪大学会館として使用されています。今年の全学教育優秀賞授賞式が行われた実験棟サイエンス・スタジオAは、かつて尋常科の教室があった場所に位置します。

副賞のバッジは、大阪大学教養部の前身である浪速高等学校尋常科玄関を飾ったステンドグラスをモチーフとしてデザインされました。伝統ある教養教育を学科首席・専攻首席として修めたという気概を持ちながら、学問の神髄を究めてほしいという期待が込められています。デザインの基礎となったステンドグラスは、全学教育推進機構実験棟1階、サイエンス・スタジオBの前にある「**教養教育歴史コーナー**」に、全学教育推進機構の沿革とともに展示してあります。近くにお越しの際には、ぜひお立ち寄りください。



<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/top-50-of-osaka-univ/>

PICKUP!

## 教えて先生！

全学共通教育部門

浅野建一 教授

Q

表面加工されていない鉄フライパンは、焦げ付きや鏽が酷くなってしまって新品同様に再生できます。ポイントは、表面全体が白銀色になるまで紙やすりとクレンザーで磨きこんだ後、コンロで空焼きすることにあります。この空焼きの過程で、フライパン表面の色が変化し、最終的にある色に落ち着きます。さて、この色は以下のどれに一番近いでしょうか？

- ①紫色
- ②青色
- ③水色
- ④緑色
- ⑤黄色
- ⑥橙色
- ⑦赤色

最後に野菜屑を炒めて油に慣らしたら、少々のことでは鏽びないフライパンの完成です



解答＆詳しい説明はこちから→→→

URL : <http://osku.jp/h0575>



# イベント報告

## クラス代表懇談会

2019年12月6日（金）昼休みにクラス代表懇談会が開催されました。1年生のクラス代表62名が参加し、教員やTA、来賓と、修学支援や留学について意見が交わされました。

今回多かったのは、2019年度秋～冬学期より始まった英語のe-learningに関する意見でした。特に、システムおよび通信上のエラーの頻出、speaking課題が行える設備の不足などが指摘されました。また、内容に関しても改善を望む意見が散見されました。留学については、半年程度の留学を行っても4年で卒業できるように単位取得に関する制度の柔軟性を望む声や、経済支援に関する情報が不足しているとの意見が述べられました。大学生活に関しては、否定的な意見ばかりではなく、エコ・レンジャーさんははじめキャンパスの日常生活を支える人々への感謝など、好意的なコメントもありました。

今回寄せられた意見は、担当部署等に伝達し可能な限り改善を進めていくとともに、機構HPで公開し対応状況を更新していく予定です。



### 学生の意見

<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/activities/class-mtg/>

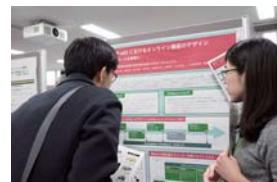
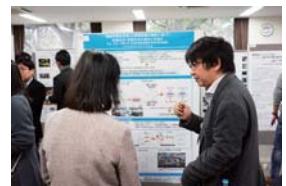
### 学生の要望への回答

<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/activities/class-mtg/answers/>

## 第4回大阪大学豊中地区研究交流会

2019年12月17日（火）に「第4回大阪大学豊中地区研究交流会」が開催されました。この研究交流会は、大阪大学豊中キャンパス内の研究者が相互の研究に触れ、交流を深めることを目的としています。全学教育推進機構では、2件のポスター発表を行いました。発表タイトルおよび発表者は次の通りです。

- 1.「機械学習を活用した授業映像の解析に基づく授業状況・学習状況の推定と可視化」  
(村上正行 教授)



- 2.「大阪大学 edX におけるオンライン講座のデザイン－集中治療コースを事例に－」  
(権藤千恵 特任研究員 他)

当日は来場者の方々からポスター発表についてのご意見やご質問をいただきました。また発表者にとっても、他分野のポスター発表を聞くことで豊中キャンパスが持つ様々な研究リソースに触れることができる貴重な機会となりました。

このように研究領域の枠を越えた研究交流会は、発表者と来場者が互いに刺激を受けながら、豊中地区の様々な取り組みとその成果発信を行うことができる有意義な機会だと思います。次年度以降も機会があれば是非参加したいです。



## 授業に役立つ教授法

## “2バスレポート”

全学教育推進機構 前機構長 佐藤 宏介 教授



大人数クラスでの提出レポートへの赤入れや学生への返却にお困りではないでしょうか。そこで、レポート課題の流れに一工夫することで、学生がレポートを読みこなし、良いレポートとは何であるかの視座も涵養できる、CLEを積極的に活用した教育メソッド“2バスレポートシステム”を紹介します。

**学生：**通常のCLE上のレポート課題と同様、バス1課題をPDF提出。  
**教員：**バス1レポートを合冊PDF化し、CLEにアップロード。

**学生：**合冊PDFを資料として、バス2課題をPDF提出。  
例「合冊レポートの中から最も優れたものを選び、貴方の評価  
観点に基づき、その優秀性を論ぜよ。」

**教員：**バス1、バス2レポートを講評し、必要に応じて表彰。

合冊PDFをビッグデータとみなし、その中から最良のものを選び出す過程や、多くの論考やアイデアを整理する過程を通して、体裁、引用等のアカデミックライティング作法の実例を学ぶとともに、良いレポートとはどのような評価観点に基づくべきものなのかを修得させます。

YouTube解説動画

<https://youtu.be/y3Q8eK9sOKk>



# “ジャングルとプリンセス” 学生ラウンジ フジモトゆめグループとの共創

2019年9月30日（月）全学教育推進機構において、「全学教育管理・講義A棟2階学生ラウンジ整備事業 完成記念式典」が開催されました。

大阪大学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年記念事業の一環として、フジモトゆめグループ様（代表：藤本加代子様）のご寄附により、アートな学生ラウンジ空間が、豊中キャンパスの全学教育管理・講義A棟2階に完成しました。この整備事業は、大学のキャンパスにこそアートの力を導入すべきという考えのもと、フジモトゆめグループ様のアート空間プロデュース力と大阪大学との共創によって、具現化できたものです。



アートの力で世界を変えようという取り組みは、現在、世界中に広まりつつあります。アートの力は、私たちの教養を深め人生を豊かにするだけでなく、創造性の涵養や健康状態の改善といった様々な場面での効果が確認されています。「ジャングルとプリンセス」のイメージを取り込んだ空間に様々な人が集うことにより、学生と学生、学生と教職員・研究者との新たな繋がりを育むとともに、学生の創造性を刺激し、「共創」の幅広い展開が期待されます。



## 全学教育推進機構の「パウダールーム＆トイレ」設置に係る取組が CAS-Net JAPANにおいて奨励賞を受賞しました

2019年11月23日（土）に名古屋大学で開催された「サステイナブルキャンパス推進協議会（CAS-Net JAPAN）※2019年次大会」において、パナソニック株式会社と本学学生団体「大阪大学トイレ研究会」をはじめとする学生たちとの協働ワークショップにより整備した全学教育推進機構のトイレ整備の事例が高く評価され、本学はキャンパスのサステイナビリティに配慮した学生活動部門にて『サステイナブルキャンパス賞2019奨励賞』を受賞しました。

これは、本学創立90周年・大阪外国語大学創立100周年記念事業の一環として、パナソニック株式会社からのご寄付により、「大阪大学とパナソニックで新しいトイレ空間の創造に挑む」と題して、女子学生・企業・大学の共創による新しい取り組みとして2018年度から開始したプロジェクトによるもので、全学教育講義B棟1階にパウダールームとトイレを設置しました。

※ サステイナブルキャンパス推進協議会（CAS-Net JAPAN）は、国内の高等教育機関、行政機関、法人において、サステイナブルキャンパス構築の取組を推進し加速させ、かつ、諸外国の活動的なネットワークとも連携し、我が国における持続可能な環境配慮型社会の構築にキャンパスをモデルとして貢献することを目的として、2014年3月26日に設立されました。

パウダールームの詳細はこちらからご覧いただけます。 ⇒ <https://www.celas.osaka-u.ac.jp/facilities/powder-room/>  
大阪大学HPでも紹介されました。 ⇒ <https://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/topics/2019/11/2804>



## CELAS NEWS

### 全学教育推進機構 教員7名が令和元年度大阪大学賞を受賞しました。

- <大学運営部門> 増澤利光(情報科学研究科)「全学的なファカルティ・ディベロップメントの実施と新任教員研修必修化に関わる貢献」
- <教育貢献部門> 宇野勝博、藤本公三(工学研究科)「2019年度全学共通教育カリキュラムの改革とPDCAサイクルの実質化」  
杉山清寛、水谷規夫(高等司法研究科)「初年次教養教育科目「学問への扉」の立ちあげ」  
佐藤浩章、根岸千悠「未来の大学教員養成プログラム」の企画・運営」

## 編集 後記

暖冬の京都は観光の人影薄く閑散としています。(K 澤)

京都の植物園に行こうと思いながら行けていない今日この頃。(K 澤)

寒くない冬ですが、やっぱり春が待ち遠しいです。(Y パパ)

ニュースレターへのご意見・ご感想・ご要望はこちらまで

✉ public-relations@celas.osaka-u.ac.jp

